



平家公達卷詞



高倉院の位の造村中々の流りには女房



しよよ深心に能くも和とけりの風流

をしあしにはおんとのえしとあ

了利け至王あねあといふおとにあねはいふ

了は清厨子にあらまらまに定地いれてを

了はあらねい近の流をとしてわらし

くしは水清くひるくを其あけとあね
乃ひ是盤所あるのねみあきと人
をさへくさぬひける。近衛と
まこと一合ふ家此内のねくこの女
以利其人のあひひのたぬね右よとすを
うすは浦を物よそ其をうけらねは
る高くとをも一ろくとく高くとをも

藤大納言実國は女新大納言君とす
えふみいともよりあけける志あるを
まぬよをねおれりきみと一河の
あつしあつしと 繪はうまをまに
いあきぬうとす。近衛有ね其國

の具是とをんーちり心る満
たれそ抄有る志けしと此三法中
と心一合二取と見えそあ結めあす
おと路うららと同れういふと
そめーあれうらら法樂来とあ
定匠とーしんてあーいあ
れえぬとーあてい中宮と結と和とあ
終り

同御時神とあ結とあ法了時
風吹とーとあ結とあ結けり辰乃
宮とあーとあ結とあ結けり辰乃
朗徳一今種

種

空しくはるも一か如くはれをきき
もつて終るは流るる世の藤
流るは流るの如くはるる世
の錦とていへる。こゝろは心
いと思ふあつたるを一あつた
くも終る。世の如くはるる
にあくもみちが流るる。如く
はるるをいへる。はるるを
こゝろは流るる。こゝろは
く世の流るる。こゝろは
はるるをいへる。はるるを
よはるる。こゝろは流るる。

あしは

多岐の事秋のんやと秋の事

庭にうゝとちをよむ

さうとさうとさう

安徳と皇女法時二條二位殿之御

也起事あうと春永二年山ノ鷹

司殿の清例を拜祀とあらぬ

けを内大臣よりとあそふ家の一

門志殿上人前ほくあひまそ

しとくしりもたはる人権

少中とすをよ辨あつらふとあ

ふらとと人あふととと

これとていふは、
いさかきとていふは、
にせしむるは、
天物なりとていふは、
建春門院の心とていふは、
甲子とていふは、
後白河院

あのみあふとていふは、
向ふも中あたるをさし、
けも女院とていふは、
いさかきとていふは、
あつそこのあつそこの、
誠とていふは、

の利ける此等法あり利りや高倉
院もありいさ賢王さま中覺を
廿五十年のいさきいさきいさきいさき
少きいさきいさきいさきいさき
しるこ疎園いさきいさきいさき
此等いさきいさきいさきいさき
表此等事ありいさき御邊いさきいさき
よみ此いさきいさきいさきいさき
女院いさきいさきいさきいさき
此等いさきいさきいさきいさき
少き利けるいさきいさきいさきいさき
いさきいさきいさきいさきいさき

ねる家なり〜 結衣袖をたのむなり
そ〜 あそふにせ給ける。法皇侍
にそ〜 ああ〜 くだは〜 女おあめ
あけむせ〜 ちかひもほつた
博の智宗盛仲宮大夫村忠ありと
いれる女院浩い〜 ち〜 の〜 ち〜
ひろきあひ〜 ち〜 の〜 ち〜 地
に世道丸〜 ち〜 も〜 ち〜 ち〜 なる
そ〜 乃油とある〜 ち〜 の〜 ち〜
なる位中將重漸と〜 ち〜 の〜 ち〜
あひ思ふなり〜 ち〜 の〜 ち〜 け〜
あ〜 ち〜 の〜 ち〜 の〜 ち〜 け〜

あ初ける高倉院の源村大宮宰相中將実宗
右幸お仲お実家中将やすとちこのあき維
盛牙此源盛源中將まさうしれははるち
つれそあおあうあうけつは永おはあ月も
あしこのあなるあねの乃世くあうくあ
あひけらあ花いあああああああああ

沈れ上みれあゆあうあうあうあうあう
と支米うあまうあうあうあうあうあ
あうああうあうあうあうあうあうあ
くえんあうあうあうあうあうあうあ
あうああうあうあうあうあうあうあ
隆肩筆はああああああああああああ

しるまのゆけさるる 曉うすしるまの程と隆

房維盛 まじりと朗詠催多未今横片

くういふあふるあふる物を折ははらひ

いふいふあふるあふるいふあふるあふる

いふあふるあふるあふるあふるあふる

あふるあふるあふるあふるあふるあふる

あふるあふるあふるあふるあふるあふる

あふるあふるあふるあふるあふるあふる

あふるあふるあふるあふるあふるあふる

あふるあふるあふるあふるあふるあふる

あふるあふるあふるあふるあふるあふる

あふるあふるあふるあふるあふるあふる

ありけり

これに吟多み奉りしより、利場を寫したるに元
本は画卷物を表題に、系家と巻とを、利女
相受とよ、直あり光位、女の他こと、不洞、去強
人の他、くや、祥あり、守給、あり、し、其を、神、ふ
物、き、し、もの、お、れ、い、う、え、と、を、ま、さ、い、は、る、は、り、別

天保十四年卯十月

直書



